

「金融市場体験学習」感想レポート

長崎大学経済学部3年

長崎大学経済学部の同窓会である瓊林会を通じて、東京で実際に金融業に従事しておられる方々にお話を聞けるという貴重な機会をいただくことができました。経済という学問分野を学んでいる学生にとって、あくまで学問は学問であって、どのように金融や我々の実生活に結びついているのかというのがうまくイメージできなかったが、株式や債券が実際に取引されているトレーディングルーム・東京証券取引所への見学を通じて実感が持てた。この研修の特に素晴らしかったところは少人数で業務に精通している人へ話を聞けるところだ。どうしても大学の講義では多数対1になりがちで、質問をするというのには性格の問題もあるだろうが、一抹の勇気がいる。しかし、今回の研修では、なんでも疑問に感じたことをすぐに聞くことができ、今回若輩な我々の対応をしてくださった証券会社の職員の方々は真摯に質問に対応してくださり、知見を深めることができた。また、懇親会では、OBの方から片淵キャンパスがあることの歴史や伝統をご教示頂いたことで、オンライン授業が多く片淵キャンパスに愛着があまりなかった自分にとって価値観の刷新につながり、現在移転の話が出ていることに悲しく思う。さらに、OBの方々からは長崎から東京に出てきてどのようなであったかを伺うことができ、東京での就職も視野に入れている自分にとって、今後のライフプランの大きな参考となった。今回の研修を概観すると、どれも学生という身分では獲得できないような体験ばかりであったように思う。したがって、このような機会を提供してくださった瓊林会には感謝を申し上げたい。卒業した暁には同窓会の益々の繁栄のため微力ながら助力できればと思う。

「金融市場体験学習」感想レポート

長崎大学経済学部3年

今回9月5日6日にあった「金融市場体験学習」に参加させていただいたのは、早期化が進む就職活動において、経済学部の講義にも頻出する金融業界についてネットや又聞きした情報ではなく実際に会社で働いている方々の姿を見て、具体的な金融業界に対するイメージを確立したいという思いがあったからです。学習の中で証券会社についての多くの学びを得ることはもちろんのこと、長崎大学OBの方々からはフランクな雰囲気の中で貴重なお話を聞かせていただきました。

トレーディング業務研修においては、様々な株式や為替レートが表示され日々の経済が映し出されている「トレーディングルーム」の一室で部署の説明や実際の業務内容について教えていただきました。さらに、そこで働く社員の方に話を聞くことができ、業務が常に変動する情報と数字を見つめ法人顧客のニーズにこたえていました。また、エクイティ部においてはその前のトレーダーに対しての指示などをこなす部門があるということを知り、金融業界といっても営業や投資家だけではなく様々な仕事があるのだということを実感するとともに証券会社の扱うカネの大きさとその責任について認識させられました。

また、OBの方から「採用側視点」のお話を聞かせていただき、私たち大学生とは全く違う採用側の視点からどのようなことを見ているのか、「逆質問」の答え方などの大変身になる時間でした。

「金融市場体験学習」では金融業界を志望する人も志望していない人も自身の在籍している経済学部に密接に関係している業界について知ることは大きな学びと成長につながると思うため、ぜひ後輩に参加してほしいと思う。